

平成 27 年度 第2回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 1 月 21 日(木)午後 1 時 30 分から午後 2 時 50 分まで
会 場	豊栄地区公民館1階視聴覚室
出席者	<p>北区自治協議会委員(教育・文化部会) 6名 (欠席1名)</p> <p>教育委員: 沢野教育委員、佐藤教育委員</p> <p>事務局: 教育総務課長補佐、保健給食課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐、豊栄地区公民館長、北区教育支援センター所長 他4名</p> <p>北区役所: 地域課長補佐</p> <p>傍聴者: なし</p>
議 事 及 び 内 容	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員挨拶 沢野教育委員</p> <p>3 事務局紹介</p> <p>4 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査 新潟市の結果について</p> <p>5 事前質問への回答について</p> <p>※ 第1回北区教育ミーティングの振り返り テーマ:「命の」教育～生きる力、支え合う力を育てる環境づくり～</p> <p>6 意見交換</p> <p>自治協委員 資料「平成 27 年度学力・学習状況調査新潟市の結果」について、他の区の数字は出せないのか。</p> <p>教育委員会事務局 数値だけがひとり歩きする危険性があるため、各区の数値は出していません。</p> <p>自治協委員 北区と同じく農家が多い区の状況が知りたい。新潟市全体との比較では分かりにくい。具体的に他の区と比較できれば、もっと分かりやすいと思った。</p> <p>教育委員会事務局 教育委員会の意図、趣旨としては、比較で見ると序列するということはありません。</p> <p>自治協委員 参考「早通中学校の学級通信」をご覧いただきたい。この便りは週一回発行している。先生の情熱が保護者にも伝わっている。この便りには、子どもたちが授業中に書いたコメントや作文、それから親のコメントなどが合体して載っている。これを見るとクラスでの取組が分かる内容になっていて、親も楽しく読んでいる。また、このクラスは保護者のまとまりが非常に良く、先生と保護者との関係も良好。このような便りの重要性というものを全ての先生に分かってほしい。思春期になると子ども</p>

は、家で話をしなくなり、何を考えているのか分からない状態になる。この便りが先生と保護者、そして子どもたちをも繋いでくれたのではないかと考えている。

連絡帳は、一生懸命子どもに向き合っている先生の気持ちが出ている。短い言葉からでも親が感じるので、子どもは特に感じると思う。そのことも全ての先生に理解してほしい。忙しいとは思いますが、それがかなり子どもたちの心に届く場合が多いのではないかと思います。

今、学校は様々な取組を行うとともに、それらに対する評価として色々な賞を貰ったりしているが、そういうことに関わっていない子どもや勉強についていけない子どもなどを含めた全ての子どもが、自分は愛されているということを感じられるような、こういう便りが非常に有効ではないかと思い、参考として紹介させていただいた。

教育委員

先生の思いが子どもたちや保護者に伝わって、コミュニケーションがとれているというところが一番の基本なのだなと、聞いていて嬉しくなりました。

命の教育の基本は何よりも、自分は認められている、愛されていると子どもたちが思うことだと思います。そういう意味では、先生がもっと生徒自身を分かってあげたり、分からないことを調べてくれたり、温かい言葉で返してくれたりすることが大切だと思いました。素晴らしい良いお話が聞けてよかったです。

自治協委員

前回の振り返りで、イライラの原因は親というところがあった。イライラの原因は親ばかりではなく、子どもたちが学習についていけないイライラもあるのではないかと。

資料「平成27年度学力・学習状況調査」の「自分にはよいところがあると思いますか」に関連して、自己肯定感を持っている日本の子どもの順位が、世界の中で43番目くらいだったと思う。学力は高くても自己肯定感が持てないというのはよくない。やはり自己肯定感が持てるような環境をつくり、自己肯定感を持てるような子どもを育てるということがとても重要なことだと思う。

20番目の「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」で、「思う」が95パーセント以上となっている。これはとても良いこと。これは学級の中や、見守りの大人たちの言葉がけ、子どもたちの環境によって、「私は誰かの役に立ちたい、喜んでほしい。」という気持ちを持っているので、中学生も小学生もその数値が高かったことはとても良いことだと思う。このような結果からも、自己肯定感を持つ取組に繋がられるのではないかと考えた。

事前質問の道徳教育について、「命の誕生を学ぶことで自分や他人を大切に思うと思うが、新潟市の具体的な取組」について聞いたかったことは、「自己内省力」、つまり自分自身を深く考える力について。自分自身を深く考えることにより協調性が生まれ、相手を認め、相手との違いを認める力が生まれる。そういうことを学ぶことにより、自分のことも大切にし、人のことも大切にできるようになる。そういう取組を行っているかを聞いたかった。自己内省力を高めることが、虐待やいじめ、自殺防止に繋がっていくと思う。そして、性教育だけではなく、命の尊厳というところを子ど

もたちに伝えてほしい。道徳教育には、命の尊厳や自分自身を深く考えるということに力を入れて進めていただきたい。そうすれば、もっと自己肯定感が持てる子になっていくのではないかと思うし、自主的にどんどん活動ができるということに繋がっていくと思う。

世界には 70 億人いるが、その中の貴重な一人が私という考えを、しっかりと子どもたちに植え付けるのも大切ではないかと思う。

「いじめ、ひやかし、虐待、自殺の現状を聞きたい」という質問の回答に、いじめによる自殺の件数は 0 となっているが、いじめではない自殺は何件だったのか。いじめの件数が小学校は 316 件、中学校は 246 件と回答があるが、いつの数字なのか。「いじめ対策委員会」の構成メンバーと、いじめ対策についてどのようなことをしているのか、具体的に教えてほしい。同時に、対策の効果、結果も聞きたい。

回答に「なお、虐待については児童相談所の取り扱いのため、市教育委として件数は把握しておりません」とあるが、私は把握しておく必要があると思う。虐待を受けた子どもは長期の取組が必要なもので、そこからいじめや自殺などの問題が起きてこないように取り組んでほしい。

「いじめの解消率が 98 パーセント」とある。平成 25 年度に比べて向上しているということだが、平成 25 年の数と、残り 2 パーセントの子たちの心や立場はどうなっているのか。いじめに対する取組というのは、100 パーセントでなければいけない。

教育委員会事務局

学校では、学習指導と生徒指導は一体でおこなうということが基本的なスタンスです。

いじめの件数は、平成 27 年 10 月末の時点です。小学校は五・六年生、中学校では 1 年生あたりで多くなる傾向があると言われています。

認知されたいじめの解消率(子どもたち同士、保護者同士も和解して、その後経過を見て、学級の中で子どもたちの人間関係がわだかまりなく修復された率)が 98 パーセント。残りの 2 パーセントに関しては、まだ継続的に指導、支援を要している子どもたちも少なからずいるということです。そこで、目指すべき方向としては、これが 0 パーセントになっていくように関係機関と連携を図りながら進めていきます。

児童相談所扱いの内容については、児童相談所との連携を随時図っています。けれども、虐待件数のような基本的なデータは児童相談所が持っていますので、そういった情報収集については少し時間が必要です。

いじめ対策委員会のメンバーについてですが、これは学校の中でのいじめ対策委員という形で、管理職や生徒指導担当、学年主任、養護教諭、あるいはスクールカウンセラー等が入っています。いじめや不登校等の事例を基にしながらケース会議をして、多面的に子どもの状況を把握しながら、どういう働きかけがその子にとって一番ふさわしいかということを検討する組織です。それは必ず学校の中に位置付けられています。

小学校などでは、担任が一人で抱えこんで、担任自身も苦しんでしまって共倒れになってしまうようなケースもあります。そのようなケースは、学校全体で預かって

いる大事な子どもの一人なのだというスタンスのもと、複数の職員で働きかけています。ここ数年、その効果が出てきていますので、そういった形で今後とも推進していきたいと思っています。

自治協委員

道徳教育の質問については。

教育委員

制度的な問題ではなくて、自治協委員個人のお考え等に関わることもあると思います。回答は、ご質問に対して丁寧に答えていると思いますけれども。改めて、もう少し具体的に質問されたらいいのではないのでしょうか。

自治協委員

道徳は本当に範囲が広くて大変だが、学校でいろいろな形ですごく取り組んでいると感じている。例えば自治協委員の小学校での授業視察・見学のようなことが可能であれば、委員も具体的に分かるのではないか。

教育支援センター所長

自治協委員の質問事項は、「命の大切さを意識づけ、命の神秘、命の誕生を学ぶことで自分を大切に、他人を大切にできるようになるための具体的な取組は」ということですね。

自治協委員

そうです。ところが生物的な表現の回答になっていた。内省力を高めるところで、自分自身を深く考えるような道徳教育という方向の取組が聞きたかった。そのことによって、いじめやその人が大人になってからの虐待も防げる。自殺も防げるという流れになると思っている。

教育委員

個人的にはおっしゃるとおりだなと思いますし、今日いる職員も、今後、ご意見を参考に、道徳の中で反映できる場所があればしていくと思います。ただ、それだけが道徳ではないので、それを参考にしながら、これからも道徳の時間をもっと有効にしていきたいと思います。

教育支援センター所長

学校の取組の中で、妊婦さんのお腹の胎動を聞いたり、赤ちゃんを抱っこしたり、亡くなった遺族の方の話を聞いたりすることを紹介しました。思春期の子どもたちには良い経験になっています。

自治協委員

青少年育成協議会について。市の補助が地域に年間6万円支給されている。しかしこの予算では何もできない。各自治会から寄付として年30万円、40万円貰ったりしないと子どもたちへの指導など、何も教えることができない。予算的な措置を改善してほしい。

教育委員会事務局

補助費については、5万5,000円を差し上げて、4,000円を市の青少年育成協議会を維持するための会費として納めていただいています。実質5万1,000円を差し上げていることとなります。育成活動は意義があるものですので、地域の中でそのような活動がさらに進んでいけるように、補助として出しています。やりなさいというような命令ではなく、地域の中でそういう活動があれば、それを補助していきますという立場です。各地区の青少年育成協議会では、いろいろな団体と協働しながらお金を工面し、活動していただいているというのが現状ではないかと思えます。

自治協委員

市の補助だけではなく、団体や自治会からのお金で活動しているのが99.9パーセントだ。私どもの会も来年50周年記念なので、もう少し補助金を増額してもらいたい。実際、子どもたちを扱うというのはお金がかかる。受益者負担で子どもたちの各家庭が全部払えというのであれば、子どもたちは集まらない。学校でやらないことを我々がやろうとしているので、よろしくお願ひしたい。

自治協委員

青少年育成協議会やPTAの団体など、いろいろな団体がバラバラで同じようなことをやっているのが気になったため、事前質問を出した。昨年11月に、一週間に2回講演会を開催していた。一方は北区のPTA連合会。それから一週間置いて青少年育成協議会。同じ北区の中でなぜそんなにバラバラに事業を行っているのか、もう少し効率的にできないか、効果が上るようにできないのかなという気持がある。団体が違うから、連携についてはなかなか難しいと思うが、同じような事業を行うことに疑問を持った。

教育支援センター所長

北区PTA連合会(新潟市小中学校PTA連合会北支部)は、学校が幹事で、その連合会に属する学校のPTAの集まりの研究大会です。青少年育成協議会は、学校が関わっている部分もあります。

自治協委員

北区の場合、青少年育成協議会は各中学校区で団体を組んでいる。北地区(松浜・南浜・濁川)では、青少年育成協議会の活動が非常に盛んで、三つの青少年育成協議会は、歴史もあり一生懸命である。また地域からそれぞれ活動資金も出してもらっているので、大変素晴らしい活動をしている。豊栄地区のほうは五つで、各中

学校区に一つあるが、コミュニティ協議会と深く関わりながらやってきた。

中学校区単位における一つの地域を巻き込んだ活動という考え方で、当初地域教育会議という名前でやっていた。そして、一律 20 万円という助成をもらって活動していた。それが新潟市と合併することにより、青少年育成協議会という組織になった。だから、連携についてはこれからだと思うが、それにしても、どちらも内容が同じようなものだったと思ったので意見を出した。今後、いろいろ考えることだろうと思う。

教育委員

今、後でいろいろ考えればいいのではないかというお話がありましたけれども、そういう話が教育ミーティングで出て当然だと思います。けれども、これを市や教育委員会が束ねなければならぬというわけではないと思います。

今回、部会の皆さんとお話していますが、前は自治協議会全体でお話しました。自治協議会の中でも連携の話などをしていただきたい。時代が変わればいろいろな課題も変わってきます。その中で、皆さんの力をどのように結集するかということが大事だと思います。そのためにこのミーティングを活用していただいて、今課題が出ましたから、次はどうしようかということをご自身が主体的に考えて進めてもらってもいいのではないかと思います。

もちろん、今の話を受けて、こちら側も今後の参考にさせてもらいたいと思いますし、いろいろと皆さんと意見を出し合いたいと思います。

自治協委員

事前質問の放課後学習のことについて、中味についてもう少し詳しく説明していただきたい。アフタースクールです。

教育委員会事務局

アフタースクール支援事業の当初の目的は、貧困対策ではなくて、中学校の特に英語、数学など積み上げていくような教科の場合は、子どもたち一人一人がかなり力の差も開いてくるし、内容度も学年を追うごとに難しくなってきます。そこで、更によく学びたい、解らないところを教えてもらいたいなどの、子どもたちの学びたいという要望に応えるために今年から始めた事業です。

基本的には放課後に実施します。60 分から 90 分、外部の学習支援員(元教員等)を定期的に学校に派遣し、希望する子どもたち(最大 40 人位)に、英語や数学を支援員が作った教材・プリントなどを使いながら、勉強する機会を提供していくという取組です。

中学校の場合は部活動との兼ね合いもありますので、大会が終わった頃の6月から先行的にやる学校と、夏休みが終わって9月から始める学校と、選べるようにしてあります。

内容についても、復習を中心にやってもらいたいという学校もあれば、少し難しい発展的な問題を中心にやってもらいたいなど、学校の要望に応じて講座を開設するという形になっています。

自治協委員

これは、学校の校長先生や教務主任の先生が、うちの学校に関してはこうだから、例えば数学で言えば、基礎ではなくて応用でやってほしい、というような形になるのか。

教育委員会事務局

そうです。子どもたちの実態を踏まえながらやっていくわけです。今回、学習支援員の方々の反省、振り返りの声などを聞いてみると、やはり1年生から3年生までに対応しますので、どこに焦点を当てて指導していけばいいのかというところが課題でした。支援員も一人しかいませんので、個別の支援、指導ということになると、複数の教材等を準備するなど、かなり難しいものがあるようです。

自治協委員

1校に一名ずついるのか。新潟市内の全校か。

教育委員会事務局

全校です。しかし、講師の人数にも限りがありますので、A校、B校、C校はこの担当が行く。次のE校はほかの担当が行くという形で、掛け持ちをして行っていたく講師もいます。中学校は56校ありますので、今年度はなんとか配置しましたが、次年度は全部の学校に数学と英語の講師がはまるかという、今のところ苦しいのが現状です。

自治協委員

北区の平成28年度区づくり予算に、新規事業として医療福祉大学の学生たちとの協働による学習支援事業が計画されている。今のアフタースクール事業と連携して実施できるとより効率的だと思う。

私が所属している組織の中でも、一般の方が夏休み期間に短期の学習指導に行っている。活動状況を聞くと、数学に関しては、小学校4年生で習うような基礎の部分が解らない。そこが解らないからずっと解らないというような現状がある。中学校も大事ではあるが、小学校の基礎学習が解らないまま中学校に入って数学の話しをしても理解できない、ということがあるようなので、区の事業と連携して、効率の良い取組にしていきたい。

教育委員会事務局

参考にさせていただきたいと思います。

自治協委員

アフタースクール、本当にいい取組だと思う。ただ、子どもたちの話を聞くと、内容が基礎的なものなのか、応用的なものなのかが分からないということがある。そこ

で、募集の際には「基礎的な学習をやります」とか、「応用的なものを望んでいる子どもが対象」ということなどを明確にしてあげると良い。子どもたちは、勉強したいがどういう内容なのか迷っているの、検討いただきたい。

教育委員会事務局

ガイダンスなど、そういった講座への働きかけの場を少し丁寧に行い、学校の担当者にも働きかけていきたいと思います。

教育支援センター所長

葛塚中学校は土曜学習をやっています。講師は医療福祉大学のボランティアです。区内では、あちらこちらでさまざまな事業が実施されていますが、そういうものがリンクして繋がるとより一層良い事業が展開できるのではないかと思います。

自治協委員

事前質問の「子どもたちの不安を取り除くための工夫・取組について」の項目で、私が傾聴の必要性について質問している。回答に傾聴の必要性を感じて取り組んでいく予定とのことであるが、それは積極的に取り組んでいただきたい。それから、教職員の研修などの中にも傾聴スキルを取り入れていただきたいと思う。やはり、子どもたちが話をしにきたときに、先生は共感的な話の聞き方をしてほしい。「そんなことか。」というように否定的な聞き方ではなく、まず受け入れてあげてほしいと思う。それは職員同士もそうだし、保護者の話も、頭から「何か言ってきたぞ。」というような聞き方ではなく、「そんなふうに思われたのですね。」という聞き方、まずは傾聴スキルを学んでいただきたい。

地域教育コーディネーターは、一年ごとの更新となっているということだが、それだとマンネリ化してしまう。新鮮なアイデア、企画力、それから多方面に経験豊かな方を受け入れるとともに、複数体制にしたほうがより良いのではないと思う。私に関わっている学校でもコーディネーターは一人。業務は定例事項でいっぱいのため、新しいことに取り組めない状況がある。複数の人員で取り組みながら、少しずつ変わっていくということが大切。

学校に関わり、保護者に関わった経験のある人がいつまでもどっぷりそこに浸っているのではなく、地域の中で別の形で活躍していただけるようになったら、より良い地域になっていくのではないと思う。もちろんコーディネーターの方々にも傾聴スキルを学んでいただき、いろいろな方からの話しに耳を傾けていただくと、素敵な環境になるのではないかなと思っている。

最後に、お配りしたチラシは、「にこっと」というグループが毎年開催する傾聴の講座。ストレスがあっては話が聞けない、ストレスを取りましょうというところから講座が始まった。産官民につながるような講座の取組をしている。「話を聞くというのは、心の余裕がないと聞けない。人の心に寄り添えない。だから一緒に学びましょう。」という内容。時間は10時から3時まで。時間は長い、ゆったりと学びながら仲間づくりをしたいという企画になっている。ぜひ興味を持っていただき、多くの人に学ん

でいただいて、よりよい地域になればと望んでいる。

教育委員会事務局

ご心配いただいている件については、よく分かっています。

平成 19 年から始まった事業ですが、短期間で全校に地域教育コーディネーターを配置しました。コーディネーターが全校に展開しているというのは、新潟市の誇れるところです。全国では 30 パーセントくらいしか事業が実施されていませんが、新潟市は 100 パーセントです。

新潟市は 10 年目を迎える来年に向けて、事業の拡大ではなくて持続可能なシステムにということを考えています。そうなれば、当然コーディネーターが複数配置のほうがやりやすいということも、いろいろな方からご意見を聞きながら検討していましたので、それについては推奨するという事で予定しています。

更に勤務状況などもかなり多様化してきていますので、整理していかなければならないと思っています。回答欄に記載しましたが、任期についても、検討していかなければならないという段階です。長く続けていいこともあれば、長く続けるがために逆に悪いところもありますので、今後、複数制を見ながら検討していきたいと考えています。

教育委員

今日はたくさんのお話が聞けましたし、皆さんの熱い思い、しっかり受け止めました。たくさんのお知恵もいただきました。これを参考に、新潟市の教育がより良くなるように、全教育委員で共有したいと思います。本当にありがとうございました。今後ともよろしく願います。

教育委員

教育ミーティングで北区以外にも回らせてもらいましたが、北区が一番まとまっていて良いというのが個人的な感想です。今後もそのまとまりの良さに期待したいと思っています。その繋がりをうまく活用して、北区だからこそこういう事業が生まれたとか、できたとかということがあったらいいと感じております。ぜひ、よろしく願います。

7 北区自治協議会教育・文化部会部会長挨拶

昨年 11 月 21 日に食育の講演会をやらせていただいた。今年も自治協提案事業として区から予算を 60 万円いただいて、昨年に引き続き北区の小中学校PTA連合会との共催で、11 月 12 日に講演会の開催を予定している。教育委員の方からもぜひ聞きに来ていただきたい。

食育に対しては事前質問への回答があるが、食品添加物など、日本が抱えている問題は全て食べ物からきているということを知っていただきたい思いで、食育の講演会を開催した。この講演会の内容をまとめたものがあるので、もしよければ、後で教育委員の方に送らせていただき、見ていただきたいと思う。

11月12日の講演会の内容はまだ決まっていないが、開催の際は皆様よろしくお願いしたい。

8 閉会